

『かさちゃんです。』

とよた かずひこ さく・え 童心社

かさちゃんがぱっと開くと、ほかの色とりどりのかさたちもやってきました。雨さんがやんだら風さんがひゅるりんひゅーとやってきて・・・。

『いいから いいから』

長谷川 義史・作 絵本館

ある日の夕方、雷がゴロゴロなったかと思ったら、目の前にいたのはなんとかみなりの親子！

「いいから、いいからー」とおもてなしするおじいちゃんに困ってしまうかみなりの親子・・・

新しい紙芝居が仲間入りしました！

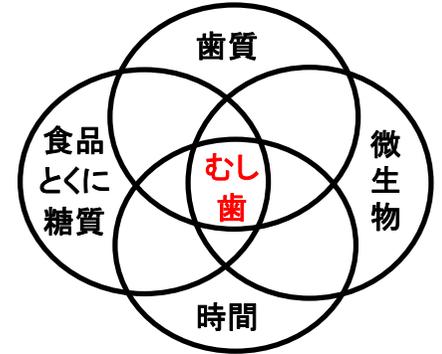
- 「よろしくね！」
- 「いたいのいたいのとんでいけー」
- 「ゴリくん、なにをつくるの？」
- 「こいのぼりののぼくん」



普段はなかなか読むことの少ない紙芝居ですが、この機会に借りてみてくださいね！



歯質・糖質・菌（微生物）・時間の4つの条件が重なり合ったとき、むし歯になります。歯質は遺伝的な要素もあり、変えることはできませんが、それ以外の要因は、大人の配慮や、正しい習慣を身につけることでクリアできるもの。特に乳幼児期は、保護者のサポートが重要です。



0歳から2歳

- 歯が生えてきたら、保護者が歯磨きをしてあげましょう。最初は、口の中に歯ブラシがはいてくることに、子どもがなれることを目的とします。
- 1歳6か月頃からぶくぶくうがいの練習をしましょう。



3歳

- 自分で歯磨きをする習慣をつけましょう。
- 食べた後に歯磨きができないときは、ぶくぶくうがいをしましょう。

口の周囲や中を触られるのを嫌がる子の場合

仕上げ磨きを行う以前に、口の中を触られることを極端に嫌がる子どもがいます。この場合は、いきなり歯ブラシを使うのではなく、口の周辺を触ったり、マッサージするなど、スキンシップを上手に取り入れてみましょう。

おとなが必ず仕上げをします！！

- 子どもの頭は固定してあげましょう。
- ブラシは鉛筆を持つような感じで持ち、あまり力を入れ過ぎないように注意します。
- 歯と歯の間や、奥歯の溝、ほほ側の歯の側面（特に上の歯）、前歯の裏側など、特に注意してみがきます。



歯ブラシをくわえたまま「歩かない！立たない！」

- 小さい頃から習慣づけることは大切です。転んでしまうと大けがになります。